

## 本業を通じて企業価値を高めることが 社会貢献につながります



THKが世界で初めて開発した「LMガイド(Linear Motion Guide:直線運動案内)」は、日本のみならず世界のものづくりの発展に貢献し、またエネルギー面、環境面でもさまざまなメリットを提供しています。今後、さらに環境・安全・福祉といった身近な分野にも応用が期待されています。少子高齢化や地域福祉に詳しい関西大学政策創造学部教授の白石真澄様に、THK代表取締役社長の寺町彰博とTHKの目指すCSRについて語っていただきました。2007年10月31日 THK株式会社 本社にて

### 「ころがり」によって省エネルギー化を実現

**白石** まず、今回初めてのCSRレポートを発行される理由をお聞かせください。

**寺町** 企業の社会的責任に関する意識は年々高まってきています。THKを支えてくださるステークホルダーのみならず、我々の取り組みを理解していただくと同時に、とりわけ社内での社会貢献、社会的責任への意識を醸成していきたいと考え、今回の発行に至りました。

**白石** THKさんの製品は工作機械を中心としたものづくりの現場や、社会の安心・安全を支える場所などでも使われていますが、事業活動そのものがCSRにつながるというのはどのような意味なのでしょう。

**寺町** THKの「LMガイド(Linear Motion Guide:直線運動案内)」は、直線運動部をすべりからころがりに変えるという画期的なものでした。従来のすべり案内による直線運動では、100kgの物を動かすのに10~20kgの力が必要です。これをころがり案内にすることによって、同じ物を1~2kgで動かすことができるようになります。つまり、物を動かすために使うエネルギーの消費量を少なくすることができます。さらに従来に比べて潤滑剤の使用量が100分の1という第2世代の製品も開発し、さらなる省エネルギー化に寄与できるようになりました。このように本業そのものが社会貢献につながってきましたし、これからもそうあり続けたいと思っています。

**白石** すべりからころがりによってエネルギー消費量

や潤滑剤の使用量などの大幅な削減につながっていくので、すね。このことは、クリーンな環境づくりにも貢献できるということですね。

**寺町** そうです。THKの製品はほとんどが工場内の生産ラインで使われていますが、クリーンな職場環境づくりにも寄与しています。また、家庭など身の回りでもっと使ってもらいたいとも考えています。ホームオートメーションが進んでいますし、少子高齢化によりバリアフリー化や介護の負担軽減も求められます。これらによりコンピュータ制御の装置が、身近なさまざまなところに必要になってきますが、そこでTHKの製品が不可欠になってくるだろうと考えています。また自動車関連でも、我々の製品を組み込むことによって、より安全に、高速に、軽量に、省エネルギーにといった効果を発揮できます。

**白石** 建物の免震にも取り組んでいらっしゃるそうですね。日本は地震大国ですし、御社の技術によって財産や生命を守る意義はとて大きいと思います。

**寺町** 免震というのは、地面と建物自体を切り離し、地震の揺れを建物に直接伝えないようにする考えで、耐震や制震とは根本的に違う地震対策です。THKの免震技術は、いろいろなタイプの揺れに対応でき、大きな効果があります。地震の脅威から家屋を守ることはもちろんのこと、家具や家電の転倒や散乱からそこに住む人々を守ることができます。多くの方々にこの免震の効果をご理解いただくために、今後も積極的にPRを進めていきたいと考えています。



関西大学政策創造学部  
教授 白石 真澄様

関西大学大学院修士課程修了。西武百貨店、ニッセイ基礎研究所主任研究員を経て、2002年東洋大学社会経済システム学科助教授に就任し、2006年に教授。2007年より現職。専門テーマは「バリアフリー」、「少子高齢化と地域システム」。

**白石** ヒューマノイドロボットの開発にも取り組んでいらっしゃるのか。

**寺町** いずれ人間がロボットと共存する社会が来るだろうという前提で、よりコンパクトで安全かつ機能的なものを提供していきたいと考え、いろいろな研究機関や大学の先生方と協力して取り組んでいます。そのひとつがロボットハンドです。手術用ロボット、整骨用ロボットなども手掛けています。機械化することでより正確に施術できることも多く、また医師が遠隔で手術することもできますから、たとえば離島にいる患者の手術を行うことも可能になります。

### オリジナリティと社会貢献の好循環

**白石** 「世にない新しいものを提案し、世に新しい風を吹き込み、豊かな社会作りに貢献する」というすばらしい経営理念を掲げていらっしゃいますね。これは、潜在化しているニーズや事業の可能性を見据えながら、常に変化して新しいものにチャレンジしていかなければいけないという、たいへん厳しい命題だと思います。

**寺町** THKは世になかった製品を世界で初めて作り出し、そのことで社会に大きな貢献をしてきました。それを企業の命題としたいという考えが基本にあります。簡単に言うとコピーはやらない、オリジナリティのあるものを追求していく、ということです。クリエイティブなことができて初めて、企業の実存価値があると思っています。

**白石** オンリーワン、トップランナーを目指すということでしょうか。そのためには社会の方向性にアンテナを張り、水面下に隠れたニーズを絶えず掘り起こすことが欠かせません。

**寺町** 実は、社会で今すぐに求められているものには、オリジナリティはあまり必要ないのです。当社は5年、10年先を見据えて、目先のことにとらわれない製品開発を心掛けています。それによって社会に対しさまざまな視点から提案をし、豊かな社会づくりに貢献していける企業であり続けたい。世にないものを生み出して、それが社会に認められ社会の発展につながっていくような形で循環していくことが、企業として存在する意義だと考えています。

**白石** 本業の延長線上に環境への貢献などの実現があり、CSRの意義があるということですね。業務のなかでの環境問題に対する取り組みについてはいかがですか。

**寺町** 国内のすべての工場でISO14001を取得し、海外の生産拠点でも取得を進めており、廃棄物や有害物質の削減に取り組んでいます。ただし気をつけなければいけないのは、もちろんこうした基準を満たすことも大事ですが、目的はあくまで地球をより良い状態で後の世代に引き継ぐことだということです。認証を取得することではありませんし、いろいろな活動をしていけば良いということでもありません。目的と手段を取り違えないようにと、従業員にも言い聞かせています。

### 顧客志向は世界共通のスタンダード

**白石** グローバル展開を推進され、各国に現地法人をお持ちになっていますが、経営の現地化や多様性に対する取り組みはいかがでしょうか。

**寺町** 海外の現地法人の従業員にも、まずはTHKの経営理念、すなわち存在意義をしっかりと理解してもらいたい。それを踏まえてどのようにローカルに展開し、発展させていくかを考えられる人材<sup>\*</sup>を育てていきたいと思っています。日本文化は海外で通用しないと言われることがありますが、お客様が求めるものは万国共通です。ですから常に「顧客の心」を持って仕事をすることを徹底させています。

**白石** 一人ひとりがお客様のマインドを持って仕事に向かえば、いま自分がしていることの見直しにもつながりますね。今後のCSR活動の方向性についてはいかがですか。

**寺町** 自分たちの仕事に社会に役立っているのですから、やはり本業にまい進していくことが第一です。そのベースとなるのは、手段と目的をしっかりと区別できる人材の育成です。世界を知り、自分を知り、絶えず自分を磨いていく人づくりに力を入れていきたいと思っています。

**白石** そうした人材からいろいろなアイデアが出て、独創的な製品が生まれる。それによって社会貢献が達成されるということですね。御社のこれからの発展が楽しみです。

\* THKでは「人材」という言葉の表記に「人材」という文字を使用しています(P30参照)。



THK株式会社  
代表取締役社長  
寺町 彰博